

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035A	卒業研究(相原英孝) Graduation research	相原英孝		専門	4	必修	4通期
科目の概要							
建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことを目的とし、本科目は家政学専攻での4年間の学修の集大成に当たります。これまでの学修により積み上げてきた知見を基に、自分自身が設定した研究テーマについて科学的な方法により調査・分析を行い、新しい知見を得ることを目的とします。これらを経験することによって、課題を発見して、その課題を解決する方法自ら見つけ、結果を論文にまとめるという論理的思考を身につけます。							
学修内容				到達目標			
① 家政学専攻での学修をベースに自ら興味を持つ生活に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 自分で設定した研究テーマに対する適切な研究方法を見つけ出し、分析・実験をする。 ③ 自身の研究を論文にまとめる。 ④ 自身の研究の概要を口頭で発表する。 ⑤ 自身の研究についてICTを利用して、情報を集め利用する。				① 家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを設定することができる。 ② 自分で設定した研究テーマに対する適切な研究方法を見つけ出し、客観的に分析・実験することができる。 ③ 自身の研究を客観的かつ論理的に論文することができる。 ④ 自身の研究の概要を分かり易く、決められた時間で口頭発表することができる。 ⑤ 自身の研究についてICTを利用して、効率よく情報を集め利用する事が出来る。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自らテーマへを決め、常に積極的に取り組むことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	調査、実験をテーマ解明のために、常に積極的に取り組むことができる。					
考え抜く力	課題発見力	日常の生活の場面から、研究テーマを見つけ出すことができる。研究テーマに対する情報やヒントを捜すことができる。					
	計画力	実験・調査を決められた期間で効果的に行うことができる。					
	創造力	研究テーマに対して、専攻研究、参考文献などから、必要な方法を見つけたり、客観的に新しい見解を示すことができる。					
チームで働く力	発信力	自分自身で取り組んだ研究を分かり易く口頭発表することができ、最終的に論文にまとめることができる。					
	傾聴力	多くの先行調査や参考文献を読みその内容を自分のテーマに利用することができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	調査報告、途中経過など決められた事を時間内に行うことができる。発表要旨、論文などの提出期限を守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：それぞれの研究テーマに合わせて、文献、書籍を捜し、それが全て参考文献になります。							
他科目との関連、資格との関連							
家政学専攻で開講される全ての科目、特にキャリア形成Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び生活スタジオ入門、生活スタジオⅠ、Ⅱ。							
学修上の助言				受講生とのルール			
集大成で有る卒業研究を第一に考え、常に努力を惜しまずに頑張ることを望みます。				約束した時間、約束した事は、必ずやって報告して欲しい。できるだけ研究室に顔を出して、話し合いの時間を大切にしたい。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート		60	①		✓	最終的にまとめられた卒業論文を評価する。
					②		✓	
					③		✓	
					④		✓	
					⑤			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①		✓	卒業研究中間報告会と卒業研究発表会でのプレゼンテーションと質疑に対する応答を評価する。
					②		✓	
					③		✓	
					④		✓	
					⑤			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	【主体性】自らテーマを決め、常に積極的に取り組むことができる。 【実行力】調査、実験をテーマ解明のために、常に積極的に取り組むことができる。 【課題発見力】日常の生活の場面から、研究テーマを見つけ出すことができる。研究テーマに対する情報やヒントを捜すことができる。 【創造力】研究テーマに対して、専攻研究、参考文献などから、必要な方法を見つけ、客観的に新しい見解を示すことができる。 【発信力】自分自身で取り組んだ研究を分かり易く口頭発表することができ、最終的に論文にまとめることができる。 【傾聴力】多くの先行調査や参考文献を読みその内容を自分のテーマに利用することができる。 【規律性】調査報告、途中経過など決められた事を時間内に行うことができる。発表要旨、論文などの提出期限を守ることができる。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤					
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
Bの基準に加えて、問題点を見つけ、自分で調べ、まとめる事が出来る。	分かり易く口頭発表ができ、論文を正しい形式でまとめることができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-30	テーマに則した事を調べ、まとめ、更に問題点を解決していく。或いは、実験を行いその結果から次の実験を組み立て行く。	演習	毎回示した問題について、調べて解決方法を見つけてくる事が出来る。	予習：毎回、見つけた問題点について確認し、その解決方法を次回までに自分で調べてくる。 復習：その回までに調べたことをまとめて、問題点を検討する	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035B	卒業研究(近藤茂明)	近藤茂明		専門	4	必修	4通期

科目の概要

本科目の目的は家政学専攻における4年間の学修を通して身につけてきた学習力・学力を総合的に用いて、自身の研究課題を設定し、地道な文献研究や調査活動等、様々な方法を駆使してその探究を進め、新たな知見を見出していくことである。その際、衣食住を中心とした現代社会や地域につながる諸課題について、これからの人間の生き方や生活スタイルに結びつけていく視点を大切に、かつ、それを論理的な枠組みの中で考察していく学修スキルを高めていく。これらの研究活動全体を通して、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自らの感性を高めて社会に貢献する人材育成を目指す。

学修内容	到達目標
① 研究課題に関する基礎的概念・内容を理解する。 ② 研究課題に沿った資料収集・読解、調査活動を行う。 ③ 研究内容を論文にまとめる。 ④ 研究内容を発表したり議論したりする。	① 研究課題をめぐる先行研究等をもとにして、基礎的概念・内容を整理して理解することができる。 ② 研究課題に沿った研究方法を見つけ、研究活動を積み上げていくことができる。 ③ 研究内容に関する諸概念を的確に押さえた上で、論理的に記述することができる。 ④ 集団的な研究活動として、自身の研究を相手に分かりやすく発表したり議論したりすることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	自身の経験や関心と結びつけながら、学修活動に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	自分自身の願いに沿った課題設定を行い、積極的な態度をもって、根気よく研究活動に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	自分自身で設定した研究課題だけにとらわれることなく、新たな課題につながるヒントを見出すことができる。
	計画力	
	創造力	研究活動全体に対して柔軟で多様な考え方をもち取り進むことができる。
チームで働く力	発信力	ゼミや全体発表の場で自分自身の研究の進捗状況・到達点や今後の課題を整理して表現することができる。
	傾聴力	ゼミや全体発表の場で自分の考えを比較しながら他者の意見に耳を傾け、より深い考えを導き出すことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	その都度、必要な研究活動について、提出期限や留意点を守って確実に活動に参加することができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：使用しない。
 参考文献：各自の研究内容に応じた参考文献・資料を適宜提示する。

他科目との関連、資格との関連

家政学専攻において開講される全ての授業科目

学修上の助言	受講生とのルール
卒業研究には、一年間にわたる長期の研究活動が求められる。そのため、常に自分の研究課題と向き合い、地道な積み重ねを行うことが最大のポイントとなる。また、そのことを通じて諸現象に見え隠れする本質を客観的かつ柔軟にとらえ、他者の考え方と相互交流していく探究的な心構えを培ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導助言を主体的に受け止め、自身の研究活動を計画的に進めていく。 ・本学での4年間の学修の集大成として取り組む自覚を強くもって臨むようにする。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	0	①		
			②		
			③		
			④		
	小テスト	0	①		
			②		
			③		
			④		
	レポート	0	①		
			②		
			③		
			④		
	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓	
			②	✓	
			③	✓	
			④	✓	
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
		②	✓		
		③	✓		
		④	✓		
総合評価割合		100			

・ゼミの検討会、中間発表会、最終発表会での発表や質疑応答における表現内容・方法の明確さを評価する。
 ・最終的にまとめられた卒業論文に対して総合的な評定を行う。観点は次の3点である。
 観点1：学術論文の形式を有している。
 観点2：論述が明瞭かつ論理的になされている。
 観点3：研究活動や指導の経緯をふまえた内容となっている。

(主体性)
 ・研究課題を自分自身の経験や関心に引きつけて研究活動に取り組むことができる。
 (実行力)
 ・明確な目標設定を行い、それに向かって根気よく取り組むことができる。
 (課題発見力)
 ・自身の課題を広げ深めて研究活動を発展させることができる。
 (創造力)
 ・他者の考えを柔軟に受け入れ、多様な研究活動に取り組むことができる。
 (発信力)
 ・自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることができる。
 (傾聴力)
 ・相手の考えを建設的に受け入れながら自分の考えを深めることができる。
 (規律性)
 ・その都度、締切期限や留意点を守って確実に研究活動を進めることができる。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・A(優)の基準</p> <p>①ゼミ活動や各種発表会等を通して、自分の考えを積極的に発信し、かつ他者の意見も柔軟に受け入れながら、自身の研究活動を高めている。</p> <p>②先行研究を生かしながら、文献研究や調査活動等を通じて、自身の研究の独自性を示している。</p> <p>③論文の形式、内容ともに的確な展開がなされ、明確な知見が盛り込まれている。</p> <p>・S(秀)の基準</p> <p>上記3項目のいずれに関しても極めて高い評価を得られると判断された場合。</p>	<p>・B(良)の基準</p> <p>①ゼミ活動や各種発表会を通して、自分の考えを分かりやすく発表し、他者の発表から少しでも学ぼうとする姿勢を示している。</p> <p>②先行研究をふまえ、自身の文献読解や調査活動等を通じた研究活動を進めている。</p> <p>③学術論文の形式をふまえた論文作成がなされている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	○全体オリエンテーション (年間の研究活動の進め方、留意点の確認) ○自身の関心に基づく研究課題の設定 ○研究活動開始	全体指導 (個人発表の構想発表・検討) 個別指導 (研究テーマの整理) Classroomの活用法の確認 (連絡・情報共有等)	・研究活動の進め方や留意点を理解し、自分自身の課題設定を行うことができる。	(予習) 図書館・インターネットによる各種資料・先行研究等の収集 (復習) 収集資料・先行研究等の整理	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-12	○先行研究文献の読解 ○各種資料類の収集・分析 ○調査活動案の作成 ○具体的な研究課題の見つけ出し	個別指導 (研究活動の方向性の決定, 研究継続) 全体報告 (指導) (ディスカッションによる研究活動経過の相互批評) Classroomを活用した資料・情報の共有	・自分自身の研究課題をもとにして、研究活動を計画的に進め、ゼミ発表において進捗状況を的確に発表することができる。	(予習) 図書館・インターネットによる各種資料・先行研究等の読解・分析・考察の継続 (復習) 教師指導に基づく研究活動の修正・追加	240	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-15	○中間発表会に向けた要旨、発表原稿、プレゼンの作成、ゼミ内でのリハーサル ○研究活動の進捗状況の確認	個別指導 (研究活動の方向性の決定, 研究継続) 全体報告 (ディスカッションによる中間発表会に向けた相互批評) Classroomを活用した資料・情報の共有	・中間発表会の諸準備を通して、自分自身の研究活動の進捗状況を確認することができる。	(予習) 中間発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成 (復習) プレゼンの修正・発表練習	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-27	○中間発表会をふまえた研究活動の方向性・内容の修正・確認 ○研究活動の継続 (先行研究文献の読解、調査活動の実施・分析・考察) ○計画的な卒業論文執筆	個別指導 (研究活動の継続) 全体報告 (ディスカッションによる研究活動・原稿執筆経過の相互批評) Classroomを活用した資料共有 中間発表会に向けたプレゼン作成	・研究活動の方向性・内容を整理し、卒業論文執筆を計画的に進めることができる。	(予習) 新たな資料・論文等の収集・読解・分析・考察, 卒業論文の作成 (復習) 教師指導に基づく研究活動・卒論原稿の修正・追加	240	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
28-30	○最終発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成、ゼミ内でのリハーサル ○卒業論文の校正・完成	個別指導 (卒論原稿執筆の継続) 全体報告 (ディスカッションによる研究活動・原稿執筆経過の相互批評) Classroomを活用した資料共有 最終発表会に向けたプレゼン作成	・最終発表会の準備を行い、研究活動の成果を卒業論文としてまとめ完成させることができる。	(予習) 最終発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成・修正, 発表練習, 卒業論文の校正・完成 (復習) 教師指導に基づく卒論原稿・プレゼンの完成, 卒業研究全体の総括	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035C	卒業研究(龍田建次) Graduation Research	龍田建次		専門	4	必修	4通期

科目の概要

卒業研究は、学校生活最後の1年間を1つのテーマを決めて行う授業です。ライフスタイル学科の4年間で学んだことをベースに、テーマを決めます。家政学は、生活の向上を支える実践的総合科学です。まずは、これまでに学んだ生活の向上に関わる学修を整理します。研究のテーマは、よほどのことが無い限り、変えることができません。何を学修したいのか、なぜ学修したいのか、どんな結果が得たいのかをしっかりと考え、決定します。卒業研究では、このテーマ決めが、最も大切です。そのテーマに向かい、真摯に研究を進めます。その際、科学的な根拠が必要です。調査、実験、分析、考察と、卒業研究は進んでいきますが、単なる思い込みでは研究にはなりません。この一連の学修を経験することにより、論理的に物事を思考する態度を身に付くと考えています。また、「新しいライフスタイルを提案」するために必要な、自分自身の考え、ものの見方の軸を作っていくことにもなると考えています。

学修内容	到達目標
① 研究テーマを決めた経緯を整理して、その目標を明確にする。 ② 先行研究を調査し、研究の方法を考える。 ③ 情報を収集し、整理、分析、考察する。 ④ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ⑤ 自身の研究成果を、口頭で発表する。	① テーマを決めた経緯を整理しながら、卒業研究の目標を明示できる。 ② 先行研究を参考にして、自身の研究の手法を構築できる。 ③ 情報を収集、整理、分析、考察することができる。 ④ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。 ⑤ 自身の研究成果を、口頭で発表できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	予習課題が行われ、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	働きかけ力	
	実行力	行われた予習課題の情報原が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、配布物以上の内容が書かれている。
考え抜く力	課題発見力	その週の学修項目が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、各項目で課題があったか否か、あるいはどんな課題があったかが、すべて書かれている。
	計画力	
	創造力	復習課題が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれており、行った際に活用した知識・技能、発揮した社会人基礎力とその効果が書かれている。
チームで働く力	発信力	授業中に示された課題の回答が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	傾聴力	授業中に示された課題が、すべて学修 行動特性 評価シートに書かれている。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	学修 行動特性 評価シートが、期日までに提出され、すべての内容が書かれている。ただし、期日の3週間後までに提出されなければ、そのシートの評価は0にする。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト： 特になし。
 参考文献： 必要に応じて、提示します。自身で検索した文献も、参考文献として認めることもあります。

他科目との関連、資格との関連

ライフスタイル学科の全科目。

学修上の助言

卒業研究に対して努力を惜しまないこと。研究に好奇心を持って向き合うこと。資料を精査し、自分の頭でしっかり考えること。真摯に取り組むことによって、初めて「研究すること」の面白さが理解できます。中途半端な取り組みからは、何も得られません。

受講生とのルール

少しずつでも良いから、自身の卒業研究に関係する作業を、毎日行います。行ったことは、学修 行動特性 評価シートに書き込みます。このシートを確認しながら、毎週、進捗状況を報告することを必須とします。シートはGoogleClassroomで発信し、GoogleDriveで教員と共有します。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	卒業論文の内容で評価します。すべて自身で執筆し、研究成果が伝われば60点。指導教授の手助けが30%以上必要であれば50点。すべて、指導教授の関与が無ければできないのであれば40点。論文が提出できなければ0点です。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		30	①	✓	中間報告、研究発表およびそれぞれの要旨で、評価します。すべて自身で行い、研究成果が伝われば30点。一部、指導教授の手助けが無ければできなのであれば25点。プレゼンか要旨のいずれかが指導教授の関与が無ければできないのであれば20点。すべて、指導教授の関与が無ければできないのであれば15点。報告・発表ができなければ0点です。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	学修 行動特性 評価シートにより、以下の内容を評価し、90%以上行われていればS、80%以上でA、70%以上でB、60%以上でCとします。 [主体性] 予習課題が行われ、すべて学修 行動特性 評価シート（以後、評価シート）に書かれている。[実行力] 行われた予習課題の情報原が、すべて評価シートに書かれており、配布物以上の内容が書かれている。[課題発見力] その週の学修項目が、すべて評価シートに書かれており、各項目で課題があったか否か、あるいはどんな課題があったかが、すべて書かれている。[創造力] 復習課題が、すべて評価シートに書かれており、行った際に活用した知識・技能、発揮した社会人基礎力とその効果が書かれている。[発信力] 授業中に示された課題の回答が、すべて評価シートに書かれている。[傾聴力] 授業中に示された課題が、すべて評価シートに書かれている。[規律性] 評価シートが、期日までに提出され、すべての内容が書かれている。ただし、期日の3週間後に提出されなければ、そのシートの評価は0にする。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤				
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>A： 次の4項目がなされている 「毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する」「月に一回の研究室内報告で、自身の成果を報告し、メンバーの報告にも、考えたことを話す」「先行研究を自身の力で見付け、自身の課題解決に活用する」「研究の成果を、文章化やグラフ、写真などで、出力する。研究の成果を、他の人が理解できるように伝える」</p> <p>S： Aの4項目が、極めて高い評価が与えられると判断された場合、Sと評価する。</p>	<p>B： 次の3項目がなされている。 「毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する」「先行研究を指導教授の力も借りて見つけ出し、自身の課題解決に活用する」「研究の成果を、文章化やグラウ化などで、出力する」</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	卒業研究のテーマを確認・決定する。 テーマとした理由と、どんな結果を考えているかを文書で示します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 テーマを考えた理由を提示した。	(予習) これまでの授業などで、学んだ事を振り返ります。 (復習) 考えたこと、話し合ったことを文書で表現します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-5	研究の方法を考えます。 研究の目標を確認します。 検索した先行事例を報告し、自身の研究との比較、活用できることを整理します。 大まかな研究計画を立てて、その妥当性を検討します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 先行事例を提示し、自身と比較し、参考にしてしていることを示した。	(予習) 先行事例を検索します。卒業研究として成立するかを、改めて自身で考えます。 (復習) 調べたこと、考えたこと、話し合ったことを文書で表現します。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-12	研究の方法を決めて、研究計画を立てます。 先行事例を読み込み、さらに検索します。 フィールドワークやインタビュー、アンケート調査、実験など、より具体的な研究方法を考え、実施します。	報告 発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 月一回の研究室内発表会で発表している。 自身で調べたこと、考えたこと、行ったことをスライドにまとめて発表している。	(予習) 先行事例を読み込み、さらに検索します。フィールドワークやアンケート調査など、具体的な研究方法を考えます。 (復習) 調べた、考えた、話し合った、行ったことを文書で表現します。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-14	中間報告の準備をします。 ここまでの進捗状況を、スライドにまとめます。 発表原稿を作成し、研究室内で練習します。 要旨を作成します。 指導教授のチェックを受けます。	発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 中間報告のスライド、オーラル原稿、要旨を指導教授に提出している。 研究室内で練習した。	(予習) スライドと発表原稿、要旨の案を作成します。 (復習) スライドと発表原稿、要旨を修正します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	中間報告を行います。 ここまでの研究の進捗状況を報告します。 要旨を提出します。	発表 提出	中間報告した。 要旨を提出した。	(予習) 十分練習します。 (復習) いただいた質問や意見を整理します。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-21	研究を進めます。 研究の目標、計画、中間報告での意見などを整理して、卒業研究を進める。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 毎回、それまでに行なったこと(情報収集、分析、考察など)を、報告している。	(予習) 中間報告での意見を整理して、研究計画を整理・改善します。 (復習) 情報収集、分析、考察などを文書で表現します。	900	
22	卒業論文の目次を書き出します。 指導教授と話し合いながら、それまでに行なったことを並べます。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 目次のチェックを指導教授から受けた。	(予習) 行ったことを、整理する。 (復習) 話し合っただけで考えた目次を書き出す。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
23-26	卒業論文を執筆します。 指導教授と話し合いながら、研究の背景、行ったこと、行った結果、考えたことを、人が読んで理解してもらえるようにまとめます。	報告 レクチャー	毎週の授業に参加している。 指導教授のチェック、レクチャーを受け、執筆を進めた。	(予習) 目次に従い、それまでに書いた文書や写真、図、表を並べます。 (復習) 話し合ったことを反映させます。	720	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
27	卒業論文を提出します。 提出には、指導教授の許可が必須です。	提出	卒業論文を提出した。	(予習) 何度も読み返し、推敲する。 (復習) 指導教授に従い、それまでに書いた文書や写真、図、表を並べます。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
28-29	研究発表の準備をします。 指導教授と話し合いながら、論文を整理して、スライド、発表原稿、要旨を作成します。	発表 レクチャー	毎週の授業に参加している。 スライド、発表原稿、要旨を教員に提出した。 研究室内で練習した。	(予習) スライドと発表原稿、要旨の案を作成します。 (復習) スライドと発表原稿、要旨を修正します。	360	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
30	要旨を提出し、研究発表を行います。	提出 発表	要旨を提出した。 研究発表を行った。	(予習) 十分練習します。 (復習) 1年間のリフレクションをする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035D	卒業研究 (近本聡子)	近本聡子		専門	4	必修	4通期

科目の概要

この研究室では、社会学／メディア／家族研究／地域社会研究の視点から、人びとの生活・文化に関わる研究をおこなう。日常生活にあるさまざまなケア労働（家族の内外）・コミュニケーション・メディアの様相を読み解き、そこに隠れている社会規範・価値観について分析し、旧来のものを改革・新しく方向づけをすることで、社会における問題や課題をどのように解決できるのか、という意欲をもって研究する。個人で進めた研究の成果をゼミで随時報告するほか、教員や他のゼミ生とのディスカッションを実施する。

学修内容	到達目標
① ライフスタイル学科で学修した知識を活用する。 ② 社会学のなかでもケア労働、親密な関係（家族）、メディア研究の理論を学び応用する。 ③ テーマや問いを深める作業をつうじて、みずからの思考を言語化／視覚化する。 ④ 固定的な価値であるジェンダー規範や多様にある不平等をどうみればよいか考える。	① ライフスタイル学科の学修にもとづき研究成果を提出できる。 ② 社会学や文化研究の理論にもとづいた研究をおこなうことができている。 ③ テーマや問いを深め、みずからの思考を言語化／視覚化することで主張できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	みずから設定した問いへの考察を深めるための、好奇心や探究心をもつ。ふだんからアンテナを張り、情報収集と内容の吟味につとめる。
	働きかけ力	
	実行力	文献調査やフィールドワークを積極的におこなう。
考え抜く力	課題発見力	日常生活におけるさまざまな問題（日常に隠れている規範や価値観）に気づき、その問題点や要因を探る。
	計画力	
	創造力	みずからの思考を、文章やプレゼンテーションなどで言語化／視覚化する。
チームで働く力	発信力	研究成果にもとづいた、説得力のある意見を述べる。
	傾聴力	これまでの学術的知見（先行研究）や他者の意見にたいして敬意をもって学ぶ。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	学術研究のルール、ゼミの開講日時とゼミでの決まりごと（レジュメ作成や課題など）を守る。また、要所要所での厳格性を遵守する。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

参考文献：戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』など。NHK出版、2012年みずからの研究テーマに対応するさまざまな文献資料。参考になりそうなものはその都度紹介する。

他科目との関連、資格との関連

ライフスタイル学科で開講されるすべての授業。これまでに修得してきた知識や技能をフルに活用すること。

学修上の助言	受講生とのルール
卒業研究は、学生がみずからの大学での学びで得たものを存分に発揮する場である。良い卒業研究、つまり大学生活の集大成となるかどうかは、各々の思考や行動次第である。もたらされる結果のほとんどは、自分の取り組みや努力によるものだと考えること。	研究計画をつねに確認し、進捗状況を報告すること。ゼミの開講日時やゼミでの決まりごと、厳格などを遵守すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
		レポート		50	①	✓	
					②	✓	
③					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			40	①	✓		
				②	✓		
	③			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S：教員や他のゼミ生と積極的にディスカッションができる。先行研究と分析にもとづく論理的な主張がなされており、問いに対応する結論が導き出されている。</p> <p>A：教員や他のゼミ生とディスカッションができる。先行研究と分析にもとづく論理的な主張がなされており、問いに対応する結論が導き出されている。</p>	<p>B：ゼミに出席し、資料収集や分析を進めることができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-30	1) 研究計画の立案 2) 先行研究や資料の収集 3) 研究方法や研究対象の確認 4) 「問い」の明確化 5) 論文アウトラインの作成 6) 研究対象の分析・考察 7) アウトラインをふくらませる 8) 論文の執筆・推敲 以上の工程を進めるために、ゼミでは以下のことをおこなう。 キーワードの作成 キーディスカッション キープレゼンテーション 研究内容や論文執筆についての相談は随時受けつける。	演習 ディスカッション フィールドワーク 文献調査	ゼミで指示された課題に取り組んでいる	予習：研究計画を確認し、随時分析や考察を進める 復習：課題や考察結果をまとめ、論文の形をつくっていく	120	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035E	卒業研究(丹羽誠次郎) Graduation Research	丹羽誠次郎		専門	4	必修	4通年

科目の概要

本科目は ライフスタイル学科での4年間の学修の集大成に当たる。これまでの学修により積み上げてきた知見をベースとして、自身が設定した研究対象、テーマについて科学的な方法により調査、分析を行い、新たな見解を示していく。この一連の手続きを経験することによって、論理的に物事を思考する態度を身につけるばかりでなく、「新しいライフスタイルを提案」するために必要な、自分自身の考え方、ものの見方の軸を作っていくことにもなるだろう。

学修内容	到達目標
① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査・分析を行う。 ③ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ④ 自身の研究の概要を口頭で発表する。	① ライフスタイル学科での学修をベースに生活に関係した研究テーマを設定することができる。 ② 自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって分析することができる。 ③ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。 ④ 自身の研究の概要を口頭で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	自身の選んだテーマへの好奇心を常に持続しつつ、研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	ゼミの仲間の研究についても進んで協力することができる。
	実行力	研究に関することは、たとえ時間や根気が必要とされることでも面倒と思わず、常に積極的な態度で臨むことができる。
考え抜く力	課題発見力	日常の生活の場面から、魅力的な研究テーマを見つけ出すことができる。普段から、自身の研究テーマに対する情報やヒントを探る態度を継続できる。
	計画力	設定したスケジュール通りに作業が進められる。
	創造力	自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって新しい見解を示すことができる。
チームで働く力	発信力	研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、スライドにまとめることができる。ゼミの仲間の研究に対して疑問や意見を提出することができる。
	傾聴力	多くの先行研究にあたることことができる。教員やゼミの仲間からの意見を建設的に受け取ることができる。
	柔軟性	教員やゼミの仲間からの意見をもとに自身の研究方法を検討し直すことができる。
	状況把握力	自分だけでなく、ゼミの仲間にとっても有意義な場になるように心がけ、ゼミに参加することができる。
	規律性	必要な作業を行ってからその報告を携えて毎回のゼミに出席できる。発表要旨、論文などの提出期限を守ることができる。
	ストレスコントロール力	卒業研究が自己の成長につながることを理解し、前向きに取り組むことができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：特に用いない。必要な資料はgoogle classroomにて提示する。
 参考文献：戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』，NHK出版，2012。
 それぞれの研究資料については随時指示する。

他科目との関連、資格との関連

ライフスタイル学科で開講される全ての科目、特にライフスタイル学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びスタジオ入門、スタジオA、B、C。

学修上の助言	受講生とのルール
卒業研究に対して努力を惜しまないこと、研究対象への好奇心を持続させること。資料を精査し、自分の頭で精一杯考えることが全員に求められる。一生懸命取り組むことによって初めて「研究すること」の面白さも理解できる。中途半端な取り組みからは、何も得ることができないと心得て欲しい。	4年次の1年間、少しずつで良いので自身の卒業研究に係る作業を毎日必ず継続してほしい。また、ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告も必須とする。また時間に限度は設けず、学修(研究)に臨んでほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
		レポート		70	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		20	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>① 質問や意見を積極的に述べることができる。</p> <p>② 先行研究を示しつつ、自身の研究テーマの独自性が説明できる。</p> <p>③ 研究の論旨が明快で結論にも明快な主張がある。</p> <p>※上記3項目の基準をに対して極めて高い評価が与えられると判断された場合、S（秀）評価をする。</p>	<p>① 毎週行われるゼミに参加し、自身の研究の進捗状況について報告ができる。</p> <p>② 発表会で研究内容がより分かりやすく理解してもらえるような工夫をしている。</p> <p>③ 先行研究を示しつつ、研究が進められている</p> <p>④ 客観的なデータに基づいて論が展開されている。</p> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。</p> <p>C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。</p> <p>⑤ 学術論文の形式に則った論文作成がなされている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-4	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたり、研究テーマを設定する。 ※研究テーマの決定	演習	毎週のゼミ参加している。研究テーマ案を提示できる。	(予習) 自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたる。毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5-9	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。設定した研究テーマが卒業研究として成立するか判断するために、さらに先行研究にあたり、その妥当性を確認する。同時に研究方法、研究計画についても妥当かつ可能であることを確認する。	演習	毎週のゼミ参加している。研究テーマの妥当性を提示できる。	(予習) さらに先行研究にあたる。毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
10-14	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。各自の研究方法に従って調査(文献調査、フィールド・ワーク、インタビュー、アンケート調査等)を進める。	演習	毎週のゼミ参加している。調査の進捗状況を報告できる。	(予習) 各自の研究方法に従って調査を進める。毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	卒業研究中間報告の準備ここまで研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。 ※卒業研究中間報告ここまで研究の進捗状況を発表する。	演習 発表	発表原稿とスライド、要旨が作成できる。卒業研究中間報告ができる。	(予習) ここまでの研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行う。 (復習) 発表に対して出された質問や意見をまとめる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
16-21	毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。調査結果をまとめ、分析、考察をおこなう。	演習	毎週のゼミ参加している。分析の進捗状況を報告できる。	(予習) 各自の研究方法に従って調査結果の分析を進める。毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジюмеにまとめておく。 (復習) ゼミで指摘を受けた点を再確認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
22-29	卒業論文の執筆論文の構成を考え、目次を作る。毎週のゼミに参加して、論文の完成した部分から教員のチェックを受ける。	演習	毎週のゼミ参加している。期日までに論文を作成し、教員の確認を経た上で提出できる。	(予習) 各自の組み立てた構成に従って論文の執筆を進める。 (復習) 教員から指摘を受けた部分を修正する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
30	卒業研究発表の準備研究の内容を発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。 ※卒業研究発表	演習 発表	発表原稿とスライド、要旨が作成できる。卒業研究発表ができる。	(予習) 研究内容をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行う。 (復習) 発表に対して出された質問や意見から自身の卒業研究を振り返る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035F	卒業研究(平岩暁子) Graduation Research	平岩暁子	✓	専門	4	必修	4通期
科目の概要							
家政学専攻で学んだ知識を最大限に生かし、4年間の学修の集大成として研究を行う。衣生活やファッションの視点から生活の中での課題や問題点を見つけ、調査・分析、制作などの手法をとりながら新たな見解を示していく。論理的な文章で研究論文をまとめ、得られた事実を分かりやすく伝えられるように発表を行い、質疑やコメントに対しても的確に対応する力を身につけていく。得た専門的知識や技能を社会に発信し、新しく豊かなライフスタイルの提案ができる人材となるため役立つ。							
学修内容				到達目標			
① 家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。 ② 自身の研究テーマに従い、資料の収集、調査、分析方法を知る。 ③ 自身の研究内容を論文にまとめる。 ④ 自身の研究を口頭で発表し質疑に応答する。				① 家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出し説明することができる。 ② 自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査、分析を行うことができる。 ③ 自身の研究内容をまとめ、論理的に説明することができる。 ④ 自身の研究を口頭で発表し質疑に適切に対応することができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	設定したテーマについて常に好奇心と探求心を持って取り組む。					
	働きかけ力						
	実行力	研究の進捗を確認しながら、常に積極的に行動する。					
考え抜く力	課題発見力	日常生活の中からさまざまな視点で関心や疑問を持ち、研究テーマを見つけ出すことができる。					
	計画力						
	創造力	設定した研究テーマに対して、新しい見解を示すことができる。					
チームで働く力	発信力	研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、パワーポイントにまとめることができる。					
	傾聴力	教員や他者からの意見を正確に理解し、自分の考えもまとめることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	無断欠席、遅刻をしない。ルールを守った行動ができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：使用しない 参考文献：各自の研究内容に応じて参考・引用文献を紹介する							
他科目との関連、資格との関連							
全ての履修科目と関連させる							
学修上の助言				受講生とのルール			
研究に対し謙虚に向き合う姿勢を持つこと。好奇心と探求心を持続させ努力を惜しまないこと。				ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告を必須とする。期日があるものは計画立て確実に実行すること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学 期 末 試 験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①					
				②					
				③					
				④					
	平 常 評 価	小テスト	0	①					
				②					
				③					
				④					
平 常 評 価	レポート	0	①						
			②						
			③						
			④						
平 常 評 価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓				最終的にまとめられた卒業論文および制作物を評価する。 卒業研究中間発表会と卒業研究発表会でのプレゼンテーションと質疑やコメントに対する応答を評価する。	
			②	✓					
			③	✓					
			④	✓					
学 修 行 動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓				【主体性】自身が設定したテーマに常に好奇心と探求心を持って取り組むことができる。 【実行力】目標のレベルまで到達しようと自ら研究を進める。 【課題発見力】生活の中で興味や疑問を持ち、テーマを見つけ出すことができる。 【発信力】ゼミでの報告、発表会で自らの考えを的確に表現し、伝えることができる。他者の研究にも興味を持ち意見や疑問を発信できる。 【傾聴力】教員の意見や、ゼミの仲間からの意見を建設的に受け取ることができる。 【規律性】ゼミを欠席しない。社会のルールと約束を守る。	
			②	✓					
			③	✓					
			④	✓					
総合評価割合			100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>研究を自ら積極的に行えていることに加え、問題が生じた場合でも的確に判断し対応できること。しっかりと調査分析が行え、自らの問いに対する結果が導き出せている。論理的な主張がされ研究論文がまとめられている。論文発表会では分かりやすくまとめ報告ができる。質疑やコメントに対しても的確に対応できている。これらに対し高い評価を与えられると判断した場合Sとする。</p>	<p>毎週のゼミに必ず出席し、研究結果をまとめた報告書、要旨、論文を決められた期日までに提出できる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	オリエンテーション 研究テーマを確立するための先行研究の調査	演習	毎週のゼミに参加している研究テーマに関する資料を収集することができる	(予習) 図書館あるいはインターネットなどで資料や文献等の検索をする (復習) 収集した資料や文献等を整理する	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	教員やゼミの他学生と意見交換しながら、自身の研究テーマ、方法を確立する。	課題の解説 演習 ディスカッション (google meetの使用も含める)	文献調査を計画的に進め、ゼミでの報告において進捗状況を的確に発表することができる。	(予習) 文献調査を継続し研究背景をまとめる (復習) さまざまな意見を整理し、自身の研究テーマ、方法を確立する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-13	各自の研究方法に従って調査・製作を進める。	課題の解説 演習 ディスカッション (google meetの使用も含める)	調査を計画的に進め、ゼミでの報告において進捗状況を的確に発表することができる。	(予習) 調査・製作を進める (復習) 出された質問や意見から、調査内容と自分の研究内容で異なる点や参考になる箇所、新たな視点を見直しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14-15	研究を進めると同時に中間発表の準備を行う。	課題の解説 演習 ディスカッション	ここまでの研究結果をまとめて中間発表の準備・発表をすることができる。	(予習) ここまでの調査内容を整理しパワーポイントにまとめる (復習) 発表に対して出された質問や意見から、研究の方向性、方法の修正の必要性を考える	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-25	各自の研究をさらに進め、得られた結果の分析・考察を行う	課題の解説 演習 ディスカッション (google meetの使用も含める)	研究が進められ、何らかの結果が得られている。	(予習) 研究を進め、結果の整理を行う。 (復習) 分析法などを再考し、得られた結果を考察する	270	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
26-30	卒業論文の執筆 卒業研究発表の準備。 要旨とパワーポイント作成	課題の解説 演習 ディスカッション	各自の組み立てた構成に従って論文執筆し期限内に提出できる。 卒業研究発表・質疑応答ができる	(予習) 論文執筆のために結果をまとめる。発表のパワーポイントを作製する (復習) 発表に対して出された質問や意見から、必要があれば加筆修正する	270	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035G	卒業研究(森山三千江)	森山三千江		専門	4	必修	4通期
科目の概要							
家政学専攻で4年間学んだ知識を最大限に生かし、社会へ出る前の集大成としての研究をおこなう。家政学の立場から衣・食・住といった生活全般に関わる知識を基盤として、一般社会において人々へ啓発活動ができる人材となることを目的とする。そのため、研究方法としてはより深く真実を追求し、既存概念を打ち破り、新たな領域における知識を得るべく研究を行う。また、自分の研究結果から得られた新事実を分かりやすく伝えられるように発表をおこない、論理的な文章として卒業論文にまとめる力を身につける。更に、研究から得られた知識を社会に発信し、社会全体がより豊かな生活を送る事が出来るように役立てる。家政学という学問領域の全ての知識と技術を十分に活かし、今後の生活を豊かにする専門的な知識の獲得となる科目である。							
学修内容				到達目標			
① 生活の中から現状の問題点に気づく。 ② 先行研究について調査する。 ③ 研究目的を設定する。 ④ 研究方法や計画を構築する。 ⑤ 結果及び考察を発表する。				① 生活の中から現状の問題点に気づく事が出来る。 ② 先行研究を比較するなどの調査が出来る。 ③ 自分の研究目的を設定する事が出来る。 ④ 年間の研究方法・計画を構築することが出来る。 ⑤ 結果及び考察を他の人に発信し、実生活の中で活用する事が出来る			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	指示されずに自ら進んで研究に取り組むことが出来る。					
	働きかけ力	学内のみでなく、学外にも進んで調査に出かけることが出来る。					
	実行力	研究の進み具合を確認しながら、実験／調査を進めることが出来る。					
考え抜く力	課題発見力	研究を行う中で新規課題を見つけたら、さらに追求する事が出来る。					
	計画力	必要な調査／研究方法を前もって調べてから研究を遂行することが出来る。					
	創造力	研究の途中でも新たな研究方法や質問紙を作成することが出来る。					
チームで働く力	発信力	研究で協力者が必要な際は協力者を呼びかけることが出来る。					
	傾聴力	先行研究者や協力者の意見を聞く事が出来る。					
	柔軟性	固定観念に捕われず、多角的・多方面から考える事が出来る。					
	状況把握力	研究の進行具合から内容を深くあるいは短縮することが出来る。					
	規律性	約束の時間を厳守し、限られた時間で研究がきちんと出来る。					
	ストレスコントロール力	研究が思うように進行しなくてもきちんと進めることが出来る。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：使用しない。 参考文献：各自の研究内容に応じて参考・引用文献をICTを使用し紹介する。							
他科目との関連、資格との関連							
主に栄養学や食品学、調理学といった科目を中心に家政学で開講される科目全般の知識と技術を生かすことのできる内容である。							
学修上の助言				受講生とのルール			
前期は予備調査／実験を行う準備期間とし、夏休みから本格的な研究になります。しっかりと先行研究を調べて新たな発見となる研究を行って行きます。				教員との約束の時間に遅れないこと。また、研究の内容は常に記録して、発表会・論文に備える事。要旨など期日が有るものは計画立てで作成し、早めに提出し、何度もチェックを受けて完成する事。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
	小テスト	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
レポート	0	①				
		②				
		③				
		④				
		⑤				
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓	① 中間発表の要旨では研究の背景や方法がしっかり書けているか。 ② 中間発表会で研究の目的や方法を的確に発表し、質疑に答えられるか。 ③ 卒研発表要旨には結果や考察がきちんと書けているか。 ④ 卒研発表会で結果と考察を論理的に発表でき、質疑にも的確に答えられるか。 ⑤ 論文は緒言から考察まで論文としての文章でまとめて書けているか。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性)自ら進んで研究を進めていくことが出来る。 (実行力)研究の進行に応じて、実験／調査を進めることが出来る。 (状況把握力)研究の進行状況に応じて、改善案を考えられる。 (創造力)研究の中で自ら質問紙を作成する、文章を書く事が出来る。 (発信力)協力者や調査対象者に正しく内容を伝えることが出来る。 (傾聴力)教員の指示に対してきちんと従う事が出来る。 (規律性)遅刻・欠席をせず、報告、要旨や論文を期日までに、記入もれがなく提出することが出来る	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合			100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>研究を率先して行う事に加えて、研究を進めて行く上で不具合が生じた際には的確に対応できる事。論文をこれまでの結果を踏まえて考察がしっかり書けており、発表も研究内容がきちんと把握されており、まとめていればA、さらにその内容が参考文献や引用文献が元になっていて適切な内容であり、さらに発表の際にも参考文献を用いた内容である場合はSとする。</p>	<p>一応の研究成果をまとめた論文を決められた期限までに提出する事が出来、発表も適切にできていればBとする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	研究テーマを確立するための先行研究の調査	ICT活用した演習、実験・実習	研究テーマに関する資料を収集することが出来る。	(予習) 図書館あるいはインターネットによる論文検索をする (復習) ノートに調べて事をまとめる	120	主体性 実行力 計画力 発信力 規律性
6-10	先行研究から得られた知識を元に自分の研究方法を見いだす	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	先行研究から自分の研究を行う手法を見いだし予備実験／調査を行う。	(予習) 目的に応じて調査する。 (復習) 実験実習を行い、その結果を見やすくまとめる	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 規律性
11-13	先行研究の方法に応じた予備調査／実験から今後の方向性を計画する	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	先行研究の手法に応じた予備調査／実験・実習の結果から自らの方法を決定することが出来る。	(予習) 調査した内容を自分の言葉にして必要な箇所をチャックする (復習) 調査内容と自分の研究内容で異なる点や参考になる箇所、新たな視点を見直しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
14-15	研究を行うと同時に中間発表の準備を進める	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	研究の結果をまとめて中間発表の準備をすることが出来る。	(予習) 調査、実験方法の見直し (復習) 調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく	180	主体性 実行力 課題発見力 規律性
16-25	各自の研究を進め、得られた結果から考察を行う	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して討論の材料とする	研究の内容を良く理解した上で結果をまとめて考察を行って行き不足分を更に追跡することが出来る。	(予習) 調査、実験方法の見直しを行う (復習) 調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく	270	主体性 実行力 課題発見力 計画力 発信力
26-30	卒業研究発表の要旨とパワーポイント作成および論文執筆	ICT活用した演習、実験・実習、成果はICT及びクラスルームを使用して論文及びプレゼンテーションの準備をする。	研究から得られた結果から発表用の要旨とパワーポイントを作成し、論文をまとめる事が出来る。	(予習) 結果のまとめと整理する (復習) 得られて結果から何が言えるのか文献も使用し考察する	180	主体性 実行力 創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120143035H	卒業研究(山田陽平)	山田陽平		専門	4	必修	4通期

科目の概要

本研究室は認知心理学や認知科学のテーマや研究方法を用いて生活に関わる事象にアプローチする。「認知」とは思考や推論、記憶などの知的活動の総称であり、一般的には頭の中（脳）の働きによるものと考えられている（ただの認知論）。状況的認知論とは、人の知性は頭の中だけで成立するものではなく、頭の外にある身体や物理的な環境、その場の状況が複雑に相互作用したものである。本研究室では、この状況的認知論の立場に基づき、人の知性がいかに発達するのかを明らかにしていくことが大きな目的である。具体的に挙げると、「できない」から「できる」ようになっていく学習過程を明らかにすることに心がける。このときの学習は、お勉強的な学習でもよいし、運動技能の学習、賢く買い物ができるようにするといった日常生活で賢く生きていくような学習でも何でもよく、人間の知性に関することであれば全て研究のターゲットである。研究の方法は一人称研究を軸にしており、研究者自身が被験者となり、長期間にわたって自分自身の変化を記録・分析する。そのためにデータの収集を多面的に行う。認知のような内部で行われている目に見えない現象を言語化することで外化する。そのために、今の思考を発話して収集・分析するプロトコル分析などを使う。加えて、身体動作の映像記録、視線計測装置を活用し、客観的なパフォーマンスの測定も行う。

学修内容	到達目標
① 学術文献を読みあさり、自分の研究の位置付けおよび意義を見つける。 ② 方法の記録のしかたを学ぶ。 ③ データを量的・質的に分析する方法を学ぶ。 ④ データおよび理論の総合のしかたを学ぶ。	① 先行研究を正しく引用し、研究目的に意義を持たせることができる。 ② 研究方法は再現できるように正確かつ丁寧に書くことができる。 ③ データは事前に計画した通りに分析することに加えて、多面的に見ようとし続けることができる。 ④ データおよび理論を総合して、論理性をもった自分なりの考察をすることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組んでいる。
	働きかけ力	他人に働きかけ、巻き込んでいる。
	実行力	目的を設定し、確実に行動している。
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。
	創造力	新しい価値を生み出している。
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝えている。
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴いている。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解している。
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。
	規律性	社会のルールや人との約束を守っている。
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応している。

テキスト及び参考文献

研究をはじめるときに当たって参照する学術論文：認知科学、質的心理学研究、心理学研究、人工知能学会誌、家政学会誌

他科目との関連、資格との関連

全ての履修科目と関連させる。

学修上の助言	受講生とのルール
最後まであきらめずに努力し続け、自分の限界を超えて論文を完成させてほしい。	目標を定めて必ず実行する。礼節をわきまえる。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		
				②		
				③		
				④		
	平常評価	小テスト	0	①		
				②		
				③		
				④		
平常評価	レポート	0	①			
			②			
			③			
			④			
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓		
			②			
			③			
			④			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
			②			
			③			
			④			
総合評価割合			100			

最終発表会で研究内容を省略することなく、かつ下級生にもわかるように表現しようとしているかを評価する。
卒業論文の内容を評価する。評価の観点は、到達目標に挙げたとおりで、序論、方法、結果、考察について学術論文を基準に評価する。加えて、引用文献が正しく書けているかを評価する。

以下の観点それぞれに対して評価する。
主体性 物事に進んで取り組んでいる。
働きかけ力 他人に働きかけ、巻き込んでいる。
実行力 目的を設定し、確実に行動している。
課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。
計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。
創造力 新しい価値を生み出している。
発信力 自分の意見をわかりやすく伝えている。
傾聴力 相手の意見を丁寧に聴いている。
柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解している。
状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。
規律性 社会のルールや人との約束を守っている。
ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応している。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S評価は次の3点が含まれているものに与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学問分野における当該卒業研究の位置付けが示されている。 ・他者が再現できる方法でデータを収集して、分析を行っている。 ・序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。 <p>A評価は次の2点が含まれているものに与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者が再現できる方法でデータを収集して、分析を行っている。 ・序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。 	<p>B評価：序論、方法、結果、考察、引用文献を学問分野のルールにしたがって正しく書くことができている。</p> <p>C評価：卒業論文を提出することができたが、Bの内容の記述に誤りがある。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	問題を発見するために、学術論文を読みあさる。問題を解決するための方法および分析方法を計画する。	演習 slack Scrapbox Notion	学術文献を読みあさり、自分の研究の位置付けおよび意義を見つけた。 先行研究を正しく引用し、研究目的に意義を持たせることができた。	(予習) 参考文献に挙げた学術論文から興味のある論文をピックアップして読む。 (復習) セミ発表時の議論をふまえて、文献を読み直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
6-20	データを収集する。	演習 slack Scrapbox Notion	データの収集方法を記録した。	(予習) データを収集する。収集方法を記録する。 (復習) データの収集方法を見直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
21-25	データを分析する。	演習 slack Scrapbox Notion	データを分析することができた。 データは事前に計画した通りに分析することに加えて、多面的に見ようとした。	(予習) データを分析してくる。 (復習) データを分析し直した。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
26-30	論文を執筆する。	演習 slack Scrapbox Notion	論文を書き上げることができた。 研究方法は再現できるように正確かつ丁寧に書くことができた。 データおよび理論を総合して、論理性をもった考察をした。	(予習) 論文を書く。 (復習) 論文を書き直す。	300	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力